

三沢光夫は作曲家を志す青年であった。彼は日本軍衛生兵として南方を転戦。奇跡的に復員するが、仲間を見殺しにして自分だけが助かったという罪悪感から曲が書けなくなっていた。

かろうじて持ちかえった戦友の形見の鈴を遺族に渡そうと、長崎へ向かった光夫は、列車から降りると、不思議な竹やぶの中に吸い込まれてしまう。そして光夫の前に突如美しい女性が現れるが、彼女は記憶を喪失しており、自分の名前も過去も分からないのであった。しかし彼女こそが、亡き戦友の唯一の遺族である田川琴（鄭玉琴）その人であった。

二人で話をするうちに、光夫は戦地ガダルカナル島で起こった悲惨な戦争体験を語り出す。食糧が尽き次々と餓死していく者。友軍の船に縄梯子を昇って乗り込む際、力尽き海に落ちて溺れ死んでいく者。台湾出身の田川功吉（鄭清煌）という傷病兵から「長崎に暮らす姉に渡してほしい」と、形見の鈴を預かったこと。そして、救助のボートに乗って迎えに来ると田川に約束し、自筆譜を彼に預け、島から脱出したこと。しかし、救助のボートは戦況に阻まれ、田川ら傷病兵を砂浜に置き去りにして友軍の船は出航した。結局、迎えに来るといふ田川との約束は果たせなかったのである。

一方お琴は、星世界の聖水に映し出された自分の過去に衝撃の事実を知る。田川琴という女性は長崎において被爆死し、既にこの世の者ではなかったのである。初めは自分の死を受け入れられなかったお琴であるが、宇宙を貫いて滔々と流れている大きな力の中で、愛をもっても越えられぬ星の定め「宿運」というものの哀しさを悟った彼女は、光夫の罪を拭うように重なりあい、星愛の契りを交わした後、形見の鈴を引き取って弟の待つ光の中へ消えていく。

お琴が消え、光夫は悲しみに泣き伏す。が、ふと傍らにガダルカナルで田川に預けてきた楽譜がある事に気がつく。楽譜を見つめているうちに、一つ一つの音符に亡くなった者たちの顔が重なり、流れるように曲が完成する。光夫は自分の書いた曲の中に、先に逝った友人たちが永遠の生を成就するのだという事に気がつき、命ある限り歌を書き続けることを決意して幕となる。

三澤光夫是一位立志成為作曲家的青年。戰爭時他以日本軍醫護兵的身份在南方隨軍轉戰，後來雖奇蹟似地歸還家鄉，但他心中充滿了罪惡感，覺得自己眼睜睜地看著同伴死去卻無能為力，唯有自己獲救生還，這份情緒讓他再也無法動筆作曲。

光夫一心想要把拼命從戰爭中帶回來的戰友遺物——鈴鐺——交給其遺族，因此出發前往長崎，但一踏下列車，馬上被吸入了一片不可思議的竹林之中。突然出現在光夫面前的美麗女子失去了記憶，絲毫不記得自己的姓名與過往；然而，其實她正是光夫死去戰友的唯一遺族，田川琴（鄭玉琴）本人。

在兩人交談之間，光夫娓娓地道出在戰地瓜達康納爾島發生的悲慘戰爭往事。當時食糧漸罄，陸續有人因飢餓而死；同袍們爬上友軍船隻的繩梯，想要翻上船板，卻紛紛因力量用盡而摔落溺死。此外，光夫還談起自己保管了來自台灣的田川功吉（鄭清煌）這位傷兵給的遺物鈴鐺，對方交付鈴鐺時還表示：「希望你能把這鈴鐺交給我住在長崎的姊姊。」接著，光夫乘上了前來救援的小船，向田川允諾道「我一定來救你」，並把自己創作的手寫曲譜交給田川，離開了瓜達康納爾島。然而，來援救的小船受戰況所阻，友軍的船隻把田川等傷兵拋在沙灘上，就這樣航行離去。到頭來，光夫始終無法實現當初對田川所許下的諾言，未能拯救戰友。

另一方面，星世界的聖水映照出阿琴的往昔，讓她得知了充滿衝擊性的過去。名為「田川琴」的女性早在長崎因原子彈的爆炸而身亡，成了另一個世界的亡魂。阿琴起初無法接受自己已經死亡的事實，但她終究還是領悟了人世的悲哀——在貫穿宇宙、滔然不絕的宏大力量中，有時候即便擁有愛，人們仍難以跨越星際間的法則，而這正是所謂的「宿命」。總算明白這層道理的她，與光夫合而為一，並與光夫交換了星愛之契約，彷彿要為他拭去所有的罪惡。隨後，她收下了遺物鈴鐺，漸漸消失在弟弟田川等待著的光芒之中。

阿琴消失後，悲傷的光夫伏地哭泣。而不經意間，他發現了當時在瓜達康納爾島田川為他保管的樂譜竟然出現在身旁。光夫凝視著樂譜，當中一個個的音符漸次與死者們的臉龐重疊，不知不覺間，他行雲流水般地完成了曲子。光夫總算意識到，原來率先離世朋友們將在自己所寫的曲目中成就永遠的生命，而光夫也下定決心，只要活在世上的一天，自己就要繼續譜下一首又一首的歌曲。